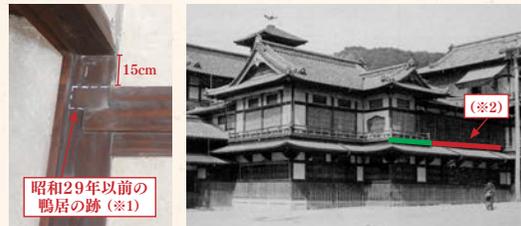


先代からのメッセージ

◆ 南棟



赤線:南棟(繋ぎ廊下) 緑線:南棟



解体調査を行った結果、繋ぎ廊下が15cm上がっている痕跡(※1)が見つかりました。昔の南棟の写真を確認すると屋根の棟部はつながっており(赤と緑の線が直線でつながっていた(※2))、旧神の湯女子浴室を昭和29年(1954)に改築した時に棟部が上がったものと考えられます。

◆ 又新殿・霊の湯棟



修理前の軒先

修理後の軒先

銅板葺き替えの施工状況です。又新殿の屋根の軒先は、段々の模様が刻まれています。この模様は建築当時の檜皮葺を再現したものと思われ、今回の保存修理工事では特別にこの模様を再現できる成型機を用意し、忠実に再現しました。数多くの文化財保存修理工事の設計や技術指導を行う専門家を有する「文化財建造物保存技術協会」の工事監理者は、「このような軒先の模様は見たことが無い」と語っており、全国でも類を見ない皇室専用浴室「又新殿」の貴重な魅力の1つです。



湯釜紹介

はじめは奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第3回

又新殿 湯釜(御湯殿)

この湯釜は明治32年に「又新殿」と名付けられた皇室専用の浴室に据えられました。湯釜の石材は香川県庵治町の庵治石で、正面から見て左の大国主命、右の少彦名命の像を彫り、御影石を入念に、そして優雅に磨き上げています。宝珠の「健歩如故」という文字は、(道後温泉の湯に浸かると)元のように健康に歩けるようになるという意味が込められており、小松宮彰仁親王のご真筆を浮き彫りしたものです。道後温泉には多くの皇族が来浴された歴史があり、皇室専用浴室である又新殿は昭和天皇、高松宮殿下、常陸宮殿下などご入浴いただきました。又新殿の浴室は道後温泉別館 飛鳥乃湯泉で特別浴室として家族で入浴が可能です。



- 補助事業名/ (重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業
■補助事業費/ 国重要文化財等保存・活用事業費補助金
■施工者/ 門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体
■監理者/ 文化財建造物保存技術協会

道後温泉本館は、神の湯で入浴できます。

※霊の湯(男・女)、又新殿、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先
〒790-0842 松山市道後湯之町5番6号 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141



[道後温泉公式サイト]
https://dogo.jp

重要文化財 道後温泉本館 保存修理工事

歴史をつなぐ 未来へのこす

愛媛 松山 道後温泉



道後温泉本館の紹介

営業中



神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。
 棧瓦及び銅板葺の木造3階建てで、1階に浴場、2階・3階を休憩室とし、入母屋造の大屋根の上に塔屋を設けています。
 (※1階で入浴できます)

又新殿・霊の湯棟

修理中

明治32年(1899)竣工。
 日本唯一の皇室専用浴室のある又新殿・霊の湯棟は、銅板葺及び檜皮葺の木造3階建てで、正面(東面)に御成門があります。



修理中



南棟

大正13年(1924)竣工。
 養生湯として建築され、神の湯本館と同じく、棧瓦及び銅板葺。修理前は、神の湯女子浴室として使用していました。

玄関棟

修理中
(内部のみ)

大正13年(1924)竣工。
 神の湯本館と南棟を合わせて、建物全体を整えるために移築されたと伝えられています。また、「道後温泉」と書かれた看板は昭和25年から飾られ、現在は2代目です。



前期工事では時代を超えて人々を癒す「道後温泉」と、時空を超えて人々を導く永遠の生命の象徴、手塚治虫のライフワークといえる「火の鳥」とコラボレーションした「道後REBORNプロジェクト」を実施しています。

© TEZUKA PRODUCTIONS



特集：保存修理工事のポイント

道後温泉本館の瓦の作り方

～愛媛県指定伝統的特産品「菊間瓦」(今治市)～



成形した湯玉の部分と唐草部分を熟練した職人の手で取り付けます。瓦の表面に光沢を良くするため加工を施し、5日ほど陰干します。



乾燥した瓦は1,050℃のガス窯で焼き上げられ、約20時間密閉し、いぶされます。この時に菊間瓦特有のいぶし銀色の光沢ができます。



焼きあがった瓦は1枚1枚打音検査を行い、中に空洞や損傷が無いことを丁寧に確認したのち、合格したものが道後温泉本館の南棟(棧瓦葺)に葺かれます。



新たに制作した瓦は補足瓦といえます。補足瓦は耐久性があることから日照時間が短く、雨などが乾きにくい等、環境が厳しい西面に葺きました。

屋根瓦の葺き替えについて

道後温泉本館の屋根瓦は現在葺かれているものをそのまま使用し、ひび割れや変形などがある劣化した瓦だけを葺き替えます。前期工事では南棟で推定3,000枚ある瓦のうち、1,300枚程度を取り替える予定です。なお、現在使われている瓦は、約100年前に松山市内で作られたものと考えられています。



道後温泉本館保存修理工事の進捗状況 (令和2年7月時点)

本館保存修理工事の主な工事内容は、①屋根の葺き替えなどの部分修理、②地震への備え、③温泉配管などの設備の更新の3つです。現在は又新殿・霊の湯棟、南棟の屋根工事や地震への備えとして補強工事を実施しています。

◆ 又新殿・霊の湯棟

大屋根(最頂部)から銅色の新たな銅板を葺いています。内部では天井裏や壁の中に補強材を取り付けています。

◆ 南棟

屋根瓦の葺き替えを進めています。内部では、地震への備えとしての補強材の取り付けが完了したところから組み立てを行い、腐朽部分の修理も同時に行っています。

◆ 玄関棟

温泉の配管、浴槽・雨水の排水が集中しており、今後点検が出来るよう設備の更新を行っています。



人がつなぐ 担当者の声【瓦職人】

Q. 瓦を作るうえで心がけていることは?

A. 先代の方が作られた瓦を見習って、今後100年先またそれ以上先まで残る瓦を、誰が見ても恥ずかしくないように作り上げようと思っています。

Q. 作業の中で特に気を使っていることは?

A. 瓦の厚みや幅、長さ、湯玉の大きさなどの寸法と、デザインを忠実に復元することが大変です。焼くことで少し縮むことを考えて生型の大きさを決めなければなりません。

Q. 普段制作している瓦との違いはありますか?

A. 現代の一般的な瓦は、軽量化が図られています。道後温泉本館の瓦は今の瓦と比べ3~5mm程度厚く、重さも300~500g重く重厚なつくりです。



オチ新瓦産業株式会社 代表取締役社長 越智 浩一さん



南棟東3F隅巴瓦



道後温泉本館保存修理工事スケジュール

平成30年度～令和6年度(予定)

	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
素屋根工事		組立	前期工事	移動	後期工事		解体
神の湯本館棟	入口切替				内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立	入口切替			
南棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
玄関棟		内部解体調査			屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	入口切替
事務所棟					内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
便所棟		解体		改築			
本館周辺整備	埋設物調査		塀復旧				石柵復旧

★現在